

## 第 23 回 ちゅうでん教育振興助成（2023 年度）

### 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	津市立朝陽中学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	情報を整理する力の育成～コグトレの理念を生かして～

#### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

##### 〈実施計画に至るまでの経緯〉

昨年度の取り組み「コグトレの視点を生かした授業改善について」を通して、認知機能を高めていく取り組みは、特別支援に関わる生徒だけではなく、すべての生徒に必要であり、また、コグトレはすべての生徒に対して学習効果に寄与しているということがわかった。しかし、教科横断的に「情報を収集し、その情報を整理すること」や「文章の読み落としや、語彙の誤った認識」など、さまざまな課題が見つかったことから、今年は、コグトレを発展的に生かし、「情報を整理して読む」ということに特化して取り組みを進めていくことになった。

##### 〈活動内容〉

##### ①朝陽中学校読み取りスキルテストの実施

定期テスト後に学校独自に作成した読み取りテストを実施した。コグトレの要素だけではなく、教科横断的な問題(家庭科で扱う内容に数学の要素を足したものなど)を作成し、年間 4 回実施した。その後、結果を分析し、個々の生徒の実態の把握を丁寧に行った。

また昨年度購入させていただいた宮口幸治先生の著書から、「1日5分!教室でできる漢字コグトレ」からも出題し、昨年度のトレーニングの成果が生かされているかの経年比較も行うことができた。昨年度コグトレを行っていない中1の生徒の正答率と昨年度までトレーニングを行った生徒の正答率とを比べると、高いものでは7倍の差がでるものもあった。

##### ②公開授業研究会の実施

1つの文章から、1つの情報を読み取るスキルを獲得するための取り組みを昨年度は行ったが、今年度は複数の情報を整理しながら読むというスキルを獲得することにこだわって、授業づくりを進めていった。9月22日(金)、は國學院大學の斎藤智哉教授、11月7日(火)は三重大学附属特別支援学校校長の中川克己教授をお招きして、2回にわたり、公開授業研究会を行った。

1 回目の研究会では課題設定の時、子どもの実態に合せていないのではないかという問題提起がされた。

子どもが「わからない」と思うような少しレベルの高い課題を与えなければ、学ぶというところへ向かわないのではないかという指摘をいただいた。2 回目の研究会では、「教科の本質」「学習指導要領の求める教科観」を教師がもって授業をしているのか、またそれらことを教師がきちんと言語化できているのかという指摘を受けた。子どもたちに読み取ること、情報を整理することをもとめるならば、教師も同様に、授業を通して、教科としてつけない力をしっかりと持つべきであろうということを強くおっしゃられた。中川克己教授は、読み取りテストの作成と分析にもご尽力いただいた。テストごとに結果を分析し、よりよい授業づくり、取り組みへのアドバイスをいただいた。

### ③教科として大切にしたい柱の設定

研究会後の校内研修では、教科横断的な力である「情報を整理する力」を子どもたちにはぐくむための授業づくりとして、以下の7つの柱を立て、今後取り組んでいくことに決めた。

- 1)各時間、単元ごとに目標(めあて)を明示し、その振り返りを行うこと
- 2)教科の本質的な面白さ(課題の充実)を伝えること。
- 3)生徒が「自分の考え」を持つ機会、言語化する機会を設定すること。
- 4)ペア・グループなどを活用し、他者との対話や他者への発信の機会を設定すること。
- 5)社会や実生活との結びつきを意識した課題づくり、授業設計を行うこと。
- 6)文章、グラフ、データなど「読む」活動を必ず授業の中で取り入れること。
- 7)授業と家庭学習を連動させて生徒の自立を促すこと

以上の柱を教師が具体化し、授業づくりをおこなっていくこととなった。

### <成果報告>

事前アンケートで、「授業や文章を精読し、整理しながら読んでいる」という項目では「読んでいる」「どちらかという」と読んでいる」と答えた割合が 44.8%であったが、2 月のアンケートでは 78.8%まで増加した。また「読み間違え等のケアレスミスがなくなったか」という項目では、「なくなった」「どちらかという」となくなった」と答えた割合が 85.3%であり、丁寧に読みとり、情報を整理することで、それぞれの教科の授業理解が深まり、テストの点数等の結果につながってきていると思われる。

「読みとる力・情報を整理する力はあなたにとって必要ですか」という項目にいたっては、「必要だ」「どちらかという」と必要だ」と答えた生徒の割合は 92%を超え、生徒の中でも実感として必要性を感じるようになった。今後の学習の礎となり、学びへ向かう力の原動力となるスキルであることがいえるだろう。

### <今後の取り組みについて>

読み取る力の育成は、自立した学習者になるためのスキルの 1 つのであると考えている。今後は「スタディサプリ」等の動画配信等を活用しながら、個別具体的な学習支援をすすめながら、自分の学習をしっかりと振り返り、粘り強く学習ができるように、家庭学習と授業のリンク、またアプリ等をつかった取り組みを進めていこうと考えている。